

因北中学校 研究だより

学びを深める
～互恵的な授業づくりを通して～

令和2年10月8日(木) 第4号

● 9月30日、平田志穂先生による、第2回校内授業研究が行われました。

- 1 授業を行った学級 2年A組
- 2 教科・単元 英語・Unit 4
Homestay in the United States
- 3 学習課題 Audienceによりよく伝わる
スピーチをしよう
- 4 授業の展開

- ・本単元の言語材料である助動詞 (must, have to) を活用して取り組む、単元を貫く学習課題を「因北中学校の校則についてスピーチをする」とし、生徒の「英語によるコミュニケーション能力の向上」をめざして、授業を構成しました。
- ・「咲く咲く復習」では、ペアでのやりとり(発話練習)を基にして、既習事項である助動詞の確認や、本時に活用する英会話表現の確認を丁寧に行いました。
- ・また、本時のめあて「Speakerにも Audienceにも効果的な Speech をすることができる」に迫るためのルーブリックを全体で確認し、グループでのスピーチ練習を行いました。



5 研究協議

○「互恵的であったか」「学びはどのように深まったのか」という視点から3つのグループに分かれて意見を出し合いました。(主な意見)

- ・ベストを尽くそうとする姿勢が見られた。
- ・4人班の中で、全員がスピーチし、ルーブリックを基に相互評価し、発話量の多い英語科の授業であった。
- ・導入の、”Who am I?”クイズでマリオを当てた生徒が「ヒントを出した生徒が「相手が分かってくれた。うれしい。」と喜ぶ姿をみることができた。自己有用感の表れであり、互恵的であった。
- ・最後に、全体の場で、モデルスピーチをさせた順番がよかった。(だれの評価も下がらない順番であった。)
- ・ゲストティーチャーが、身近な人で、その人の頑張りを見せることで等身大で効果的であった。
- ・英語の授業としては、学びは深まっていた。総合的な学習の時間で「使えるもの」にすることでより、学びが深まると思う。
- ・1回目と2回目の間に文章を自分で書き直した生徒が「文章を変えたら、リズムがよくなった。」と自分で気づき、改善し、授業を通して内容が向上した生徒がいた。



○Audience のほめ言葉について

- ・今は、英語での褒め言葉を見ながら言っているが、ある程度の型を何度も練習させることで、卒業するまでに、英語で言えるようになればよい。
- ・普段から英語で反応するよう、英語の授業で意識させる。
- ・褒める言葉の例が少し多すぎるので少なくする。

○より互恵的にするために

- ・代表スピーチの後、ふりかえりを共有しても良かった。
- ・褒め言葉リストを生徒が使いたい台詞を出させ、子どもの自然な言葉で、生徒達で英語版を作らせるとよい。
- ・スピーチをする人に、評価がかえっていないのではないか。班で評価することで共有し、次へのスピーチに改善できる。評価カードを書いてもらい、班をシャッフルして最終的に全体で評価しあえる形式にする。
- ・モデルスピーチをネイティブスピーカーにするとよい。
- ・モデルスピーチを聞いた後で班で再確認をして、自分の原稿を見て練習されるとよい。
- ・咲く咲く復習の” Who am I?” のクイズの良いヒント例を生徒に紹介することで出題者の力がアップすると思う。

○授業全体を通しての感想

- ・「流れはコンパクトでうまくアレンジされている。」「色々な手法を取り入れている。」「授業規律が整っているから学びあえる。」「1時間内にたくさんの活動を仕組まれており、子ども達は楽しんでできている。」「班の全員を巻き込む工夫がなされていた。」と高評価でした。

6 今後に向けて

- ・学びを深める学習を生み出すために、授業の中で時間をかけるところと絞るところを明確にするよう授業構成を考えていきましょう。
- ・話し合いを行う際には、答を考える観点を明確に示すようにしましょう。
- ・生徒に発表させる場面では、理由をつけて説明させるようにすることで、発言者以外の生徒の理解の深まりにつなげるようにしましょう。

◎年度初めに、一人一単元の開発指導案を今年も作成していただくように、お願いしています。授業を提案されない先生方、単元開発をされた指導案を2学期中に作成・起案の上、教育研究班の令和2年度学習指導案のフォルダーにデータを保存してください。よろしくお願いいたします。

◎次回は、10月26日に西先生による音楽の授業(中堅研修)における学習指導案で、新しい評価についての提案があります。10月29日の午後から因北小学校において特別支援教育の授業参観後、合同研修会が予定されています。

※「生徒の学びを中心に話ができる喜び」を味わえる教育研究を、力を合わせて創っていきましょう！